

厚生労働推進調査事業費補助金（腎疾患政策研究事業）

腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築

分担研究報告書

研究の推進：研究開発・国際比較

AMED, 厚労省等の公的研究

研究分担者 深水 圭 久留米大学

研究要旨：2008年から2022年において日本腎臓学会員による公的資金獲得データの収集・解析を行った。総獲得数194件、AMED51件、JST71件、厚労科研72件であった。総獲得研究資金は93億4669万円、AMED51億688万円、JST5億8146万円、厚労科研36億5836万円であった。日本腎臓学会として多くの資金を獲得していた。

A. 研究目的

これまで日本腎臓学会員が公的資金を獲得してきたが、一望して経年的にどの程度資金を受けているか、実情が見えてこなかったことから、経年的にデータを蓄積する必要があり、日本腎臓学会としても社会にも広くCKD研究開発が認識されるべきであると考えられ、今回データの収集・解析を行った。

B. 研究方法

2008年から2022年までに獲得したAMED、厚労科研、科学技術振興基金(JST)について、全ての日本腎臓学会の会員に対してメーリングリストを使用してアンケート調査を行い、その結果をもとに解析を行った。

C. 研究結果

日本腎臓学会としての研究費総獲得数は194件で93億4669万円、内訳はAMED51件51億688万円、JST71件5億8145万円、厚労科研72件36億5836万円であった。研究の種類で最も多かったのが病態解明であり68件であった。次に多かったのがCKD対策で24件、その他難治性疾患事業は22件、新規治療法は13件などであった。厚労科研はCKD対策が最も多く、AMEDは難治

性疾患事業、JSTは病態解明が最も多かった。

D. 考察

日本腎臓学会として獲得した件数・研究費は93億円程度であることが判明し、以前調査した件数、金額と比較して多く、高額であった。特にAMED獲得数の増加が著しく、学会としてAMED研究へcontributeしていた。今後のさらなる研究費獲得が期待される。

E. 結論

日本腎臓学会会員のAMED、JST、厚労科研獲得数、獲得資金を収集・解析した。日本腎臓学会として多くの資金を獲得しており、今後のさらなる研究費の獲得増加が期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表
特になし
2. 学会発表
特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし